

生物多様性影響評価検討会での検討の結果

名称：除草剤グリホサート耐性及び低リグニンアルファルファ（改変 *cp4 epsps*, *CCOMT*, *Medicago sativa* L.）(J101×KK179, OECD UI: MON-ØØ1Ø1-8 ×MON-ØØ179-5)

第一種使用等の内容：食用又は飼料用に供するための使用、栽培、加工、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為

申請者：日本モンサント株式会社

1 生物多様性影響評価の結果について

本スタック系統アルファルファは、

改変 CP4 EPSPS 蛋白質をコードする改変 *cp4 epsps* 遺伝子が導入された除草剤グリホサート耐性アルファルファ（J101）

カフェオイル CoA 3-O-メチルトランスフェラーゼをコードする *CCOMT* 遺伝子の部分配列を逆方向反復配列の形で組み合わせた DNA 断片（以下「*CCOMT* 遺伝子断片」という。）が導入された低リグニンアルファルファ（KK179）を用い、交雑育種法により作出されたものである。

本スタック系統アルファルファに導入された遺伝子により産生する除草剤耐性蛋白質である改変 CP4 EPSPS 蛋白質は酵素活性を有するが、高い基質特異性を有し、宿主の他の代謝系を変化させたり、予期しない代謝物が生じたりする可能性は低いと考えられる。また、*CCOMT* 遺伝子断片からは新たな蛋白質が産生されることはない。

さらに、改変 CP4 EPSPS 蛋白質と *CCOMT* 遺伝子断片は関与する代謝経路も互いに独立していることから、これらが相互に作用し、予期しない蛋白質や影響が生じることが考え難い。

以上のことから、本スタック系統アルファルファの植物体内において形質間の相互作用が示される可能性は低く、親系統が有する形質を合わせ持つ以外に評価すべき形質の変化はないと考えられる。

なお、各親系統の次に掲げる評価項目については検討が既に終了*しており、当該検討の結果では、各親系統を第一種使用規程に従って使用した場合、我が国における生物多様性に影響が生ずるおそれはないとした生物多様性影響評価書の結論は妥当であると判断されている。

- (1) 競合における優位性
- (2) 有害物質の産生性
- (3) 交雑性

* 各親系統の検討の結果は以下より閲覧可能

- J101

https://ch.biodic.go.jp/bch/OpenDocDownload.do?info_id=679&ref_no=2

● KK179

<http://www.s.affrc.go.jp/docs/committee/diversity/140203/pdf/3-1.pdf>

2 生物多様性影響評価を踏まえた結論

以上より、本スタック系統アルファルファを第一種使用規程に従って使用した場合に、我が国における生物多様性に影響が生ずるおそれはないとした生物多様性影響評価書の結論は妥当であると判断した。